

日本学童保育学会 第9回研究大会

ご参加を心からお待ちしております

大学も現場も新年度でお忙しいことと存じます。第9回日本学童保育学会実行委員長の垣内国光です。今大会は、東京多摩地域にある明星大学で開催されます。私事ですが、大学退職直後に学会実行委員長を務めるという幸運（不運？）に恵まれ、張り切っているところです。

大学内会員のほか東京、埼玉、神奈川の会員等 10 数名で現地実行委員会を構成し、全国から皆さまをお迎えできるよう鋭意準備をすすめています。会場となります明星大学は東京駅からおよそ1時間強かかりますが、眺望がすぐれ綺麗なキャンパスをもった大学です。多摩モノレール駅に直結し近隣にはホテルも多くありますので、快適にお過ごしいただけるとと思います。もう一泊していただいて、ケーブルカーで高尾山に登っていただくのも一興かと存じます。また、懇親会では美味しい食事お酒（新潟の銘酒など）を用意いたします。存分に交流していただき研究の疲れを癒やしていただけるとと思います。

どうぞ、6月23日24日の日本学童保育学会第9回大会にお越し下さい。実行委員会一同、心より皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

第9回学童保育学会大会実行委員長
垣内 国光（明星大学元教授）

■日 時：2018年6月23日（土）13時~~30~~00分～

・24日（日）9時00分～

※6月23日の開始時間に訂正があります（訂正前13時30分→訂正後13時00分）

■会 場：明星大学 日野キャンパス

（〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1）

■日 程

6月23日（土） [第1日目]

12:40から 受付

13: ~~30~~00 - 16:00

※開始時間に訂正があります（訂正前13時30分→訂正後13時00分）

課題研究1 学童保育の源流を探る

—歴史に学び、地域のなかで学童保育とは何かを問う

【趣旨】

日本学童保育学会が課題研究として一貫して取り組んできたのは「学童保育とは何か」というテーマでした。今回は、このテーマに、本学会としてはじめて歴史的にアプローチをしていきます。

日本における学童保育の起点をどこに求めるか。戦前からの歴史をひもときようとしても、研究の蓄積は少なく、定説もありません。戦前、都市のスラムで取り組まれたセツルメントは、働く親の子を含んで地域の子どもたちの遊びや学習に取り組んでいました。それは「学童保育」とは呼ばれなかったとしても「学童保育の源流」として捉えることができるのではないかという仮説も成り立ちます。実際、戦後大阪において先駆的に学童保育を担った多くの施設は、戦前におけるセツルメントの流れを汲むものでした。

さらに、1960年代の後半、学童保育づくり運動が都市において展開されるようになっていく時期は、自家用車やテレビが普及していく時期でもあり、学童保育に限らず地域における子どもの遊び（場）のありようが問われるようになった時期でもありました。

このように、学童保育とは何か、学童保育の対象・目的・内容はどうあるべきか、という問題は、地域における子どもの遊びや生活との関連で、歴史的に問う課題でもあると思われます。今回は、3つの報告とともに、1960年代半ば、都市で変貌する子どもの遊び場を記録した映画を検討素材として、議論していきます。

【報告者】

基調報告 石原 剛志（静岡大学教授）

「日本の学童保育史研究の現状と課題」

報告者1 増山 均（前早稲田大学教授）

「学童保育の源流を探る—帝大セツルメントなどの戦前の取り組みについて」

報告者2 前田 美子（日本学童保育士協会）

「大阪における学童保育づくり運動の成立と発展—共同学童保育の思想と実践」

司 会 住野 好久（中国学園大学副学長）

【映画】 「遊び場のない子どもたち」 (39分、1964年、桜映画社)

——車社会到来により、遊び場を奪われた都会の子どもたちが、逞しくもエネルギーに遊ぶ様子など(作品カタログより)を描いた記録映画「遊び場のない子どもたち」。この映画のなかでは、東京における草創期の学童保育づくりの実践として知られる「みどり会」(板橋区)での子ども様子も映し出されます。高度成長期、地域における子どもの遊びの様子と始まったばかりの学童保育づくりに光をあてて見たいと思います。

16:15-17:30 総会

18:00-19:30 懇親会

6月24日（日） [第2日目]

9：00－12：00 自由研究発表

- ・一つの発表当たりの発表時間は、個人研究（発表20分、討議10分）、共同研究（発表30分、討議15分）を予定しています。
- ・発表希望者は、後述する「自由研究発表申し込み方法」をご覧ください。
- ・分科会は、自由研究発表の申し込みテーマ・数をふまえ、実行委員会にて設定します。

13：00－15：30

課題研究2 インクルーシブ教育と学童保育実践

【趣旨】

今年度の学童保育学会誌の特集テーマ2では、「特別なニーズを持つ子どもと学童保育」を取り上げた。

今日、未診断の子どもを含めると、ほとんどの学童保育には、発達障害や知的障害、その他の障害を持つ子どもが複数在籍しているのがフツウの状況になっている。

障害者基本法第16条では、「可能な限り障害者である児童及び生徒が障害者でない児童及び生徒と共に教育を受けられるよう配慮すること」とされている。その意味では、たとえ学校教育の場では特別支援学校に措置されている子どもであっても、放課後の生活の場である学童保育では「可能な限り、障害者でない児童及び生徒と一緒に生活する権利」を保障していくことは障害者基本法の理念にも合致するものであろう。

しかし、その一方で、障害者権利条約第24条には「障害のある人がその人格、才能、創造力並びに精神的及び身体的な能力を最大限度まで発達させること」が目標として挙げられている。可能なかぎり同じ教育の場で学習を受けられるように配慮していくことと、障害を持つ子どもの最大限の発達を保障していくこと、この二つを統一的に実現していくことは容易な課題ではない。

また、インクルーシブ教育においては、学習者の差異や多様性は教授・学習上の『問題としてではなく、学習を豊かにする機会として捉えるべきものとされている。(荒川智 2014) 子どもたちの差異や多様性が学習を豊かにする機会となるような教育実践が要請されているのである。

もちろん、これは第一義的には学校教育の課題ではあるが、学童保育という生活の場も、広い意味では子どもたちの「学びの場」であるだけに、障害をもつ子どもの存在が、学童保育の生活全体を通した子どもたちの学びの豊かさ、お互いの成長を実現できるような「集団づくり」が課題になってくると考えられる。

しかし、保育条件が恵まれていない学童保育では、障害を持つ子どもを受け入れることは大きな重荷になり、適切な支援が行えないなかで、子どもたち同士の関係も学び合いの関係ではなく、敵対的、排除的な関係になってしまう場合もしばしばである。また、障害児加配の制度がなかったり、あっても、労働条件の悪さから募集しても人が来てくれないという困難な状況も存在している。

さらに言えば、自閉症スペクトラム障害などの発達障害の子どもを理解し、適切な支援につなげていくためには高い専門性が指導員には求められるが、そのような専門性は「放課後児童クラブ支援員」の認定資格研修などで培うことは不可能であり、学童保育に受け入れを求めるのであれば、障害を持つ子どもに関わる支援員研修の充実や支援体制の充実が必要不可欠であろう。

本課題研究では、学童保育実践での具体的な取り組みも報告してもらいつつ、そのような実践を進めていく上での大きな壁となる保育条件や職員の専門性の問題も浮き彫りにし、問題解決に向けての課題と方向性を探求していきたい。

【趣旨説明・コーディネーター】 楠 凡之(北九州市立大学教授)

【報告者】

報告者1 竹中 真美(滋賀県大津市学童保育指導員)

「障害のあるヒロトくん理解と学童保育の集団づくり」

報告者2 横浜市中田学童保育おひさまクラブ指導員

「育ち合う子どもたちに学んで」

報告者3 西本 絹子(明星大学教授)

「インクルーシブ保育の実践とは」

■大会参加申し込みについて

- 別紙「申し込み書」に記入のうえ、事前に4頁に記載の宛先(e-mail・FAX・郵送)まで申込みください。参加費は、当日お支払いいただきます。おつりのないようご準備ください。
- 大会参加費 会員3,000円、非会員4,000円
※なお、学生・院生についてはおってご連絡いたします。

■自由研究発表申し込み方法(締め切り4月27日)

- 自由研究発表者は、日本学童保育学会会員(入会申請中も可)であることが要件となります。現在会員でない方で自由研究発表を希望する場合は、発表申し込みとあわせて入会申し込みをしてください。(入会申し込みについては、日本学童保育学会事務局にお問い合わせください。入会案内・規約・申込書等は公式ホームページでも入手できます。)
- 自由研究発表を希望する方は、別紙「自由研究発表申込書」に記入のうえ、4月27日(金)までに4頁記載の宛先(e-mail・FAX・郵送)まで申込みください。
- 自由研究発表者には、『発表要旨集』に掲載する原稿を作成・提出いただきます。執筆要領は、後日申し込み代表者にお知らせいたします。
(原稿締め切り予定 2018年5月18日(必着) A4判1頁1,500字程度)

■懇親会について(申し込み締め切り6月8日)

- 1日目(6/23)18:00より懇親会を行ないます。事前に申し込みが必要です。申し込みは、6月8日(金)までに別紙「申し込み用紙」にご記入のうえ、FAX・電子メールで送信してください。
- 懇親会参加費は、全員4000円です。なお、参加費は当日お支払いいただきます。

■お問合せ・お申込み先

<日本学童保育学会事務局>

〒710-0292

岡山県倉敷市玉島長尾 3515 くらしき作陽大学

子ども教育学部 子ども教育学科 鈴木瞬研究室 (5-408) 気付

E-mail : jimukyoku@gakudouhoikugakkai.com

Tel/Fax : 086-436-0270

●学会公式ホームページ <http://www.gakudouhoikugakkai.com/>

■会場までのアクセス

明星大学 日野キャンパス 32号館・33号館

〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1 <https://www.meisei-u.ac.jp/access/hino.html>



★都心からのアクセス

新宿から京王線「高尾山口」「京王八王子」方面行きの特急か準特急に乗車。高幡不動駅にて多摩都市モノレールに乗り換えて中央大学・明星大学下車。(乗車時間約40分)

★羽田空港をご利用の方

【高速バス利用】

「立川駅」行き直通バスに乗車
バス運賃大人片道 1,500 円。

多摩都市モノレールに乗り換えて「多摩センター」行きに乗車、中央大学・明星大学下車(所要時間約85~125分。時間は道路状況により変わります)。

【鉄道】

東京モノレールに乗車、浜松町でJR山手線に乗り換え新宿下車。新宿から京王線で高幡不動へ。多摩都市モノレールで3駅目。



★お車でお越しの方

中央道「国立府中」で降り、八王子バイパス国道20号を日野方面へ。万願寺交差点で都道503高幡・八王子方面へ。(高速出口より15分~20分)。
※週末は動物園の来園者が多く、周辺道路が混雑します。駐車場に限りがあるため、公共交通機関をご利用ください。

■ 周辺宿泊施設

- 【立川駅】 立川ワシントンホテル TEL042-548-4111 <http://washington-hotels.jp/tachikawa/>
 ホテルメッツ立川 TEL042-548-0011 <http://www.hotelmets.jp/tachikawa/>
 立川グランドホテル TEL042-525-1121 <http://tachikawa.khgrp.co.jp/>
- 【八王子】 京王プラザホテル八王子 TEL042-656-3111 <https://keioplaza.co.jp/hachioji/>
 東横 INN 八王子駅北口 TEL042-698-1045 <https://www.toyoko->

■ 学内マップ

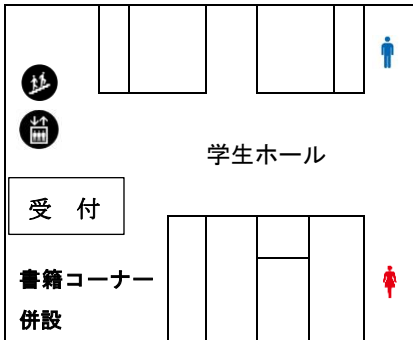


1. モノレール中央大学・明星大学を下車。明星大学の方お進みください。

2. エスカレーター(3台)と階段を上りきります。右手に32号館が見えます。

3. 建物沿いに奥まで行き、33号館入り口までお越しください。

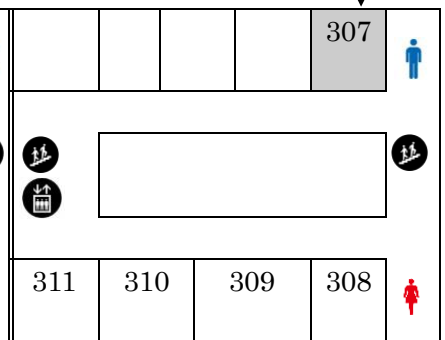
大会本部：33号館 307



↑ 33号館 1階入口

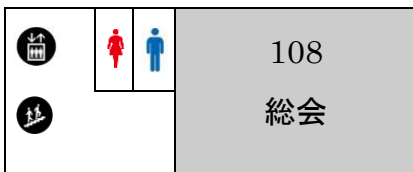


33号館 2階



33号館 3階

↓ 32号館入口 1



↑ 入口 2 通路

32号館 2階

